

主な使用場面・領域・教科等：自立活動、作業学習等

<図・写真>



<材料・製作方法等>

LED タッチライト マイクロスイッチ
スライドスイッチ モノラルプラグ
ケーブル 木材 単三電池ケース

①タッチライト内のスイッチをマイクロスイッチに替える。②スライドスイッチでライトの切り替えができるよう配線する。③板を加工し、タッチライトをビス留めする。④単三電池ケースを加工し、スライドスイッチをケース内に取り付ける。⑤マイクロスイッチからのケーブルにモノラルプラグを取り付ける。

<ねらい>

- ①二つのスイッチのうち、LED が点灯したスイッチを見て押す。
- ②不必要に乱打しがちな子供の不正入力を抑え、適切な操作タイミングを学習する。
- ③二つのスイッチの効果の違いを理解し、場面や状況に応じて選択し、使い分ける。

<指導方法・留意点等>

- ①左スイッチ，右スイッチそれぞれのプラグを機器 A，機器 B に接続。
- ②教師がスライドスイッチを操作し，左スイッチ LED を点灯する。左スイッチ点灯中に押すと機器 A が動作する。
- ③教師がスライドスイッチを操作し，右スイッチ LED を点灯する。右スイッチ点灯中に押すと機器 B が動作する。
- ④教師がスライドスイッチを操作し，両スイッチの LED を消灯すると，押しても機器は動作しない。

<指導経過・成果・課題・展望等>

中学部のリサイクル活動で使用している「缶先生」（自動缶分別装置）へ接続し，左スイッチで缶の投下リフトを作動させ，右スイッチでリフトを停止するようにした。リフトが停止状態の時に，次に投下する缶を教師がセットし，左スイッチ LED を点灯すると，光に気付いて左スイッチをすぐに見ることができた。押すまでにかかる時間はばらつきがあるものの，右スイッチにあった手を左スイッチへと移して押す動きがよく見られた。時間が経つにつれ，写真上のように，左右それぞれのスイッチに手をかけて待つ変化が見られた。

まだ，本スイッチを製作して 1 回目の学習を終えたばかりだが，光刺激の効果は非常に大きかったと感じる。三項関係が未成立な子供には特にこの“物体自体が注意喚起をする”働きは有効である。

100 円ショップのタッチライトを使用しているが，スイッチを押す場所により反応がルーズなため，マイクロスイッチを増設することで改善できるのではと考える。

